

2024. 5. 14 タイミングを逃す

テントウムシの幼虫を探しにグミの木の下を探すY男。すると、何やら変わったものを見つけます。「先生、なんか黒い種みたいなのがあるよ!」とY男。その横にいたM子も「なんだこれ?」と不思議そうに見つめます。教師も「それはなんなのかな?」とその場で一緒に考えます。するとY男は「ちょっと調べてくるわ」と保育室に戻ると、植物図鑑を広げて調べ始めました。

でも図鑑にはのっていません。「先生、よくわからんわ!」とY男。「じゃあ、タブレットで調べてみる?」と教師は提案してみます。「うん! 僕やるよ!」とY男。

『黒い種』『みつつ』『小さい』『爆弾みたい』…と自分なりに検索ワードを考えながら調べてみます。でもお目当てのものは出てきません。

すると、違う教員から「それ『スマレ』の仲間みたいだよ」とヒントをもらいます。

Y男は「え? すみれ? うそ!」とすぐに『すみれ』『たね』と検索します。

「ほんとにあった! 一緒だ!」とY男。

すると、Y男はその種を丁寧に取ります。そして、「これ植えたら、すみれがさくのかな? 植えてみたい!」とY男。

植木鉢に土を入れて、その種を植えました。

その様子を見ていたY子。「先生、わたし、このチェリーセージを植えてもいい? いっぱい吸いたいから」と言いに来ます。教師は「もちろんいいよ!」と植木鉢を渡します。

教師はこの姿をみんなの時間で共有することができませんでした。それは他の話題で深めていたから。次の日、すみれの種のことを紹介しようとグミの木の下を探すものの、一つも見当たらない。実物がないと、子供たちの探究へとはつながりにくいと考える、次の日も話題にあげることなく終わってしまいました。

Y男はその後何も言ってきませんが、Y子は毎日きちんと水をあげている姿も見られます。

その見つけた時に、心が動いたときに、不思議に感じた時に共有する大切さ、タイミングの重要性を考えさせられた日になりました。なにか違うチャンスでこのすみれやチェリーセージについて取り上げて、種の面白さや不思議さにも触れることができるといいなと考えています。

